



学びの虹

東京都立鹿本学園 学校通信 令和6年1月19日号

東京都立鹿本学園

校長 高橋 馨

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

令和6年 2024年を迎えて

元日に発生した令和6年能登半島地震。テレビ局が一斉に正月の番組から震災の報道に切り替わり、刻々と被災状況が明らかになる様子から、2011年の東日本大震災を思い出した方も少なくはなかったと思います。この度の震災で犠牲になられた方の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。そして被災地域の日も早い復興、日常生活が戻ることを心よりお祈りいたします。

学校では、予定通り3学期が始まりました。始業式では、いつも通り友達や先生と一緒に学校生活が始まることの幸せを実感し、だからこそ、一日一日を大切に充実した毎日を過ごせるよう頑張りましょうという話をしました。子ども達も雰囲気を感じたのか、少し緊張したような表情で聞いてくれたように感じました。

また、嬉しいお知らせとして大谷選手から届いたグローブとメッセージ「野球しようぜ」を紹介しました。関心のある子ども達から歓声が上がりました。全国の小学校に寄贈された大谷選手からのグローブ、鹿本学園にはS部門とN部門を合わせ2セット6つが届きました。小学部に限定せず全校で共有し、使ってもらいたいと考えています。その様子は各種たより等でもお伝えできるかと思えます。楽しみにしててください。

冒険遊び場／インクルーシブ（共生）

「移動式 冒険遊び場（プレーパーク）」は、地域の子供達が無拘束で遊ぶことができる場の提供と、「開かれた特別支援学校」の推進という目的で、今年度より始まった都教育委員会による事業です。本校と八王子西特別支援学校の二校で実施されました。本校では、学校

が使っていない週末の第二グラウンドを活用して9月～1月にかけて5回ほど行いました。鹿本小、本一色小、上一色南小といった近隣の小学生を中心に、毎回150名程度の子どもとその保護者が参加されていたそうです。常連のように参加して黙々とコマ回しを練習する子や、ボールゲーム楽しむ親子、今年度の最終回となった1月13日（土）も、集まった子ども達は、設置されたアスレチックや用意された遊具を使って、インストラクターと共に楽しい時間を過ごしていました。

「冒険遊び場」事業は、インクルーシブ（共生）への流れを受け、学校教育で行う副籍交流のように、社会教育の場でも特別支援学校に通う子どもと地域の小学校に通う子どもの交流の機会を生み出すというねらいもあるそうです。実際に、マチコミの案内を御覧になって利用された本校の児童・生徒、保護者もいらっしゃいました。地域の子供達と遊びを通じた交流の場となることもあったと伺っています。嬉しいことです。その一方で、S部門に通う子ども達の活用を考えた時は、実態やニーズに応じた内容や環境など、改善に向けた課題が少なくないことも分かりました。

この「冒険遊び場」事業は次年度も継続予定です。鹿本学園の子ども達には、是非こういった取り組みに積極的に参加していただき、その感想や感じたこと、どうしたらもっと使いやすくなるか気付いたこと等を発信していただければと思います。そうすることが、子ども達の生活しやすい環境、共生社会の実現につながるからです。辰年は、新しいことを始めるのによい年とも言われています。今年もいろんなことにチャレンジしましょう。

鹿本学園校長 高橋 馨

～部活動紹介～

鹿本学園スポーツ競技部「ハンビーズ」只今活動中！ そして部員募集中！！

S部門中学部、高等部生を対象に、部活動参加希望者でスポーツ競技部の部活動を行っています。土曜日の午前中に体育館等を使って皆でスポーツを楽しみ、一緒にいい汗をかいています。スポーツ競技部で取り組んでいる競技は、陸上競技（6月の東京都障がい者スポーツ大会の種目練習と大会参加）、ボッチャ（練習を積んで年間で様々な大会に参加しています）、ハンドサッカー（2月に東京都大会が開催されています）です。ボッチャは結果を競う競技大会はもちろん、皆が楽しめるレクリエーション大会もあり、学習グループや身体の状態を問わず皆でボッチャを楽しんでいます。そして、東京都発祥のハンドサッカーは、障害の状態等にかかわらず全ての生徒が参加でき、全ての生徒が活躍し輝ける、そんな魅力的な球技スポーツです。今年度は2月17日（土）にオリパラ会場として使用された武蔵野の森 メインアリーナで都大会が開催されます。大会が近付き練習にも一段と熱が入ってきました。皆さん、応援よろしくお祈りします。



進路指導の取り組み（サポートデスク：進路担当）

S 高等部では2年生と3年生において産業現場等における実習を行なっております。本人や御家庭にとっては進路選択や卒業後をイメージする機会となります。有効活用していただき本人を中心に御家族にとって卒業後の生活を意識する時間となることを願っております。また、実習は相手側にとっても本人の様子を見る場でもあります。本人にあった居場所や活動を提供できるのか？どのグループが適切か？などを探っております。1月より2年生が実習へ出ます。限られた機会となりますので、有効につかっていたいただければと思います。進路先も多岐にわたっており、迷いや不安はあるかと思ひます。また個人の状況も違います。学校も一緒に考えてまいりますので、いつでも御相談いただければと思います。

S部門 進路指導担当 齋藤 信子

N部門中学部では、作業学習や職業の授業を中心に、働くことや高等部進学に向けた意識を高めるための取り組みを行っています。鹿本学園を卒業後、高等部に進学して大切なことは「いつでも、どこでも、だれとでも」自分のもっている力を安定して発揮できることです。そのためにも、作業能力的なことはもとより、体力的、精神的な成長を、学校生活全般を通して指導しています。N部門中学部3年生は、それぞれの進学先の高等部の見学に加えて、今年度は白鷺特別支援学校の出前授業がありました。白鷺特別支援学校の清掃班の生徒が鹿本学園に来て、自在ぼうきの使い方やダスターの絞り方、テーブルの拭き方などを実演しながら教えてくれました。この体験により、生徒一人一人の高等部進学への意識が高まって、現在は入学相談に向けて面接練習などを行っています。

N部門 進路指導担当 満井 友加里